

# 学校関係者評価委員会開催資料

学校法人北海道安達学園  
専門学校札幌デザイナー学院

開催日：平成29年3月9日

出席委員：外部側関係者（業界団体関係者2名、企業関係者1名）

学校側関係者（理事長、学校長、副校長、本部室室長、事務局長、学科長）

欠席委員：外部側企業関係者1名（ただし、事前に関係者評価及び評価意見は提出済み）

## 平成27年度自己評価&学校関係者評価シート

専門学校札幌デザイナー学院

### 1、教育理念・目標、人材育成

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
		自己評価	関係者評価
1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4	4
1-2	学校の特色は何か	4	4
1-3	学校の将来構想を抱えているか	4	4
評価項目総括	学校法人北海道安達学園では、3つの教育方針である「基礎知識・技術の習得」「専門知識・技術の習得」「社会性の習得」に基づき、学園使命である、教育事業を通じて、社会に貢献する人材の育成に努めています。また、総合専門学校という特徴を活かし、多様性のある環境から生まれる新しい発見を学生たちの“やる気”につなげ、学生たちが“なりたいたい自分になる”ためのサポートを行っています。実践指導の中で技術力、創造力、コミュニケーション力を養い、即戦力となりえる優秀なクリエイター、ビジネスパーソンを育てて行くこととしています。 業界関係者・保護者等への周知については、ホームページ等で周知を図っている。		
各評価委員からの意見や課題	3学科の特色を分かりやすく伝え、出口となる職業を分かりやすく表現。		
今後の改善方針	入学者数の減少を止めるための、特色の見せ方と教員の育成。		

### 2、学校運営

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
		自己評価	関係者評価
2-1	運営方針は定められているか	4	4
2-2	事業計画は定められているか	4	4
2-3	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	4	4
2-4	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	4	4
2-5	意思決定システムは確立されているか	4	4
2-6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	3
評価項目総括	・運営方針は、事業計画にまとめ、毎年作成している。事業計画は、法人理事会の承認を得て、幹部運営会を経由し周知を図っている。 ・運営組織は、組織図に全教職員を組織上に位置づけ、幹部会議、校務会会議、職員会議を通じて意思決定システムを構築している。 ・人事、給与に関する規定については、法人総務部で一括整備・管理を行っている。賃金の決定は、業務査定・業績査定に応じ行われている。		
各評価委員からの意見や課題	学校内での情報の共有化の迅速化と確認を進める。		
今後の改善方針	共有化のために様々な会議や打ち合わせの共有と問題点を話し合い検討。		

3、教育活動		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
		自己評価	関係者評価
評価項目			
3-1	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4	4
3-2	修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	4	4
3-3	カリキュラムは体系的に編成されているか	4	4
3-4	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	4	4
3-5	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	4	4
3-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4
3-7	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	4
3-8	教員の専門性を向上させる研修を行っているか	4	4
3-9	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	4
3-10	資格取得の指導体制はあるか	4	4
評価項目総括	コンペや企業コラボレーションにより、業界に即した人材育成を実施。		
各評価委員からの意見や課題	デザインやコンピューターグラフィックスなどの、新しい情報と様々な研修に参加。		
今後の改善方策	授業の分かりやすさと各授業の繋がりを明確化。		

4、教育成果		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
		自己評価	関係者評価
評価項目			
4-1	就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか	4	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4	4
4-3	退学率の低減が図られているか	4	4
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	3
評価項目総括	キャリアセンターと担任制の就職指導体制により、就職率90%以上を達成している。退学率も担任の指導により改善されている。		
各評価委員からの意見や課題	より専門職の内定を増やすために、1年生から2年生の指導を強化。		
今後の改善方策	職業から業種の早期から説明し、業界研究へと担任とキャリアセンターと連携し進める。		

5、学生支援		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
		自己評価	関係者評価
評価項目			
5-1	就職関する体制は整備されているか	4	4
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	4
5-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	4
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	4
5-6	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	3
5-7	保護者と適切に連携しているか	4	4
5-8	卒業生への支援体制はあるか	4	4
評価項目総括	就職への体制を更に推進し、授業や生活面を把握していく。		
各評価委員からの 意見や課題	精神的な面での問題を持った学生が増えているので、早めの対応。		
今後の改善方策	担任と本人と親との連携を密にし、父母連絡を進める。		

6、教育環境		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
		自己評価	関係者評価
評価項目			
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	4
6-2	学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	4
6-3	防災に対する体制は整備されているか	4	4
評価項目総括	学内施設は、実際の現場で使用されている設備を整えプロと同じ設備にこだわっている。学外実習、インターンシップそして海外研修については十分な教育体制を整備しているが、学科別の海外研修は実施していない。防災訓練は、避難方法等を指示して実施をしている。		
各評価委員からの 意見や課題	学科によっては、インターンシップの機会に差があるので、企業との連携をとる。		
今後の改善方策	企業情報を、担任、講師そしてキャリアセンターで共有していく。		

## 7、学生の募集と受け入れ

		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
評価項目		自己評価	関係者評価
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	4
7-2	学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	4	4
7-3	入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか	4	4
7-4	学納金は妥当なものとなっているか	4	4
評価項目総括	本校は、北海道私立専修学校各種学校連合会の加盟校であり、連合会の定めたルールに基づいた募集時期・内容を遵守している。また、入学案内、募集要項、ホームページ等の通り、適正に募集活動は行われており、学納金及び教科書・教材費等は毎年見直しを行い、適正かつ妥当であると思う。入学専攻方法も募集要項の通り、適正かつ公正な基準をもとに実施している。		
各評価委員からの意見や課題	学校、学科の更なる特色や成果を分かりやすく表示。		
今後の改善方針	入学案内パンフやダイレクトメールの表現方法や特色の打ち出し方を検討。		

## 8、財務

		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
評価項目		自己評価	関係者評価
8-38	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	4
8-39	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4
8-40	財務について会計監査が適正に行われているか	4	4
8-41	財務情報公開の体制整備はできているか	4	4
評価項目総括	財務は学校運営の重要な一つである。事業計画を基に中長期の展望を見据え、収支予算計画を作成する。学校、理事会、評議員会と複数の目によるチェック体制のもと、より現実的な予算編成となっている。会計監査は、監事による監査及び公認会計士による監査を実施、計算書類は適正である旨の監査報告書をいただいている。 財務情報の公開体制については、組織的に取り組んでいる。		
各評価委員からの意見や課題	特にありません。		
今後の改善方針	特にありません。		

## 9、法令等の遵守

		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1	
評価項目		自己評価	関係者評価
9-1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4
9-2	個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか	4	4
9-3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	4
9-4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	4	4
評価項目総括	法令や設置基準等に従い適正に運営を行っている。自己点検・自己評価の結果について公開を速やかに行っている。		
課題	特にありません。		
今後の改善方針	特にありません。		

### ■今後の取り組みについて

各評価項目について、各評価関係者からの意見や課題を踏まえ、今後の改善方針等を計画的に検討し実施して行くことを評価委員一同確認し、教育体制を強化していく。

# 資金収支計算書

平成 28年 4月 1日から

平成 29年 3月 31日まで

学校法人 北海道安達学園

(単位 円)

収入の部	
科目	決算額
学生生徒等納付金収入	1,067,066,792
手数料収入	13,792,740
補助金収入	22,486,000
資産売却収入	170,330
付随事業・収益事業収入	6,425,715
雑収入	7,096,186
前受金収入	784,456,839
その他の収入	6,401,825
資金収入調整勘定	△ 691,142,100
前年度繰越支払資金	1,605,964,835
収入の部合計	2,822,719,162

支出の部	
科目	決算額
人件費支出	422,298,926
経費支出	386,876,941
借入金等利息支出	1,265,774
借入金等返済支出	93,612,000
設備関係支出	4,082,614
その他の支出	59,200,885
資金支出調整勘定	△ 64,277,387
次年度繰越支払資金	1,919,659,409
支出の部合計	2,822,719,162

# 事業活動収支計算書

平成 28年 4月 1日から

平成 29年 3月 31日まで

学校法人 北海道安達学園

(単位 円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	決 算 額
		学生生徒等納付金	1,067,066,792
		手数料	13,792,740
		寄付金	0
		経常費等補助金	22,486,000
		付随事業収入	6,425,715
		雑収入	7,096,186
		教育活動収入計	1,116,867,433
	事業活動支出の部	科 目	決 算 額
		人件費	422,174,626
		経費	561,631,619
		徴収不能額	18,604,200
		教育活動支出計	1,002,410,445
	教育活動収支差額		114,456,988
	教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目
受取利息・配当金			18,334
その他の教育活動外収入			0
教育活動外収入計			18,334
事業活動支出の部		科 目	決 算 額
		借入金等利息	1,265,774
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	1,265,774
教育活動外収支差額		△ 1,247,440	
経常収支差額		113,209,548	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	決 算 額
		資産売却差額	0
		その他の特別収入	0
		特別収入計	0
	事業活動支出の部	科 目	決 算 額
		資産処分差額	85,670
		その他の特別支出	0
		特別支出計	85,670
特別収支差額		△ 85,670	
基本金組入前当年度収支差額		113,123,878	
基本金組入額合計		△ 88,614,614	
当年度収支差額		24,509,264	
前年度繰越収支差額		△ 1,516,220,490	
基本金取崩額		0	
翌年度繰越収支差額		△ 1,491,711,226	

(参考)

事業活動収入計	1,116,885,767
事業活動支出計	1,003,761,889

# 貸借対照表

平成 29年 3月 31 日

学校法人 北海道安達学園

(単位 円)

資 産 の 部	
科 目	本 年 度 末
固定資産	7,517,208,479
有形固定資産	7,516,275,775
その他の固定資産	932,704
流動資産	1,953,584,548
資産の部合計	9,470,793,027
負 債 の 部	
科 目	本 年 度 末
固定負債	57,588,500
流動負債	965,128,762
負債の部合計	1,022,717,262
純資産の部	
科 目	本 年 度 末
基本金	9,939,786,991
繰越収支差額	△ 1,491,711,226
純資産の部合計	8,448,075,765
科 目	本 年 度 末
負債及び純資産の部合計	9,470,793,027

# 財 産 目 録

平成 29年 3月 31 日現在

学校法人 北海道安達学園

(単位 円)

科 目	金 額
資 産 の 部	
基本財産	7,263,675,704
運用財産	2,207,117,323
合 計	9,470,793,027
負 債 の 部	
固定負債	57,588,500
流動負債	965,128,762
合 計	1,022,717,262
正 味 財 産	8,448,075,765